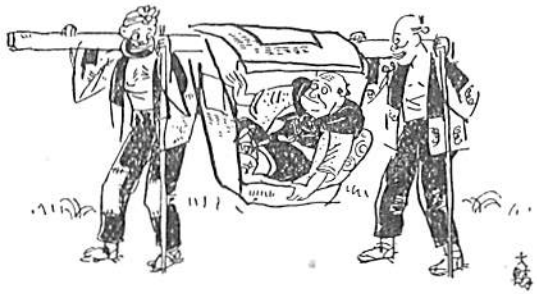
中々有名な物で、ヘエ。』

『そんな家では、知らん者は遊ばさんのぢやろナ。』



『大茶屋は一現のお客様は皆斷ります。が若し旦那がお越しに成らうとお思ひでムりましたら、綿富の女中頭、お富どんと云ふ人と心易ふして貰ふてますよつて、綿富なら御案内申します。』

『こんな田舍老爺でも遊ばして下さるかナ。』

『へーえ。そらもう旦那さんの御人體でおましたら、決して粗略にはしや致しまへん。』

『そんなら其綿……富かナ。それへ連れて往て貰ひませう。』

『ヘイ承知を致しました、相棒北陽やで。』

『ヤレ〳〵漸う往く先が出來た。』

『氣樂なお方やなア。そんなら旦那、一つ走らして貰ひます。』

『アヽコレ〳〵。別に急ぎやせん。そんな無理をなはんな。お足が資本の御稼業。痛めて貰ふては氣の毒ぢや、どうぞゆる〳〵と遣とくなされ。』

『ヘエ大きに有難うさんで、アヽ併し旦那さんなんど結構なお身分でごわすなア。今日どうして遊ぶ

と云ふ事に御苦勞なはる。我々見たいに朝から晩まで、ヘイ駕ヘイ駕と屁で死んだ亡者見たいに云ふて暮してる者も矢つ張り人間でおますがナ。考へると旦那。時々嫌やアになる事がムります。』

『アツハツハツハ。甚ふ悔みなはるナ。いや人間上を見れば限りが無い、下見ても際限が無い。箱根山駕に乘る人乘せる人、その又草鞋を作る人、各々その分に應じて樂しみもあれば苦しみも有る。他の花は赤ふ見えるが人情ぢや。貴方がたが左うして壯健で稼ぎなはる姿を見て、羨しふて堪らぬ人も世には何程あらうやら知れぬ。老人や足弱の苦難を助けて己れの暮しを立てる、立派な稼業ぢや。卑下せんと稼業大事に勵みなされ。』

『旦那さん、大きに有難うはんでごわす。もう駕屋なんて云ひますと人間の屑見たいに云はれますので、自分でもツイ左様思ふとりましたが、成程今見たいに仰有つて頂きますと、矢つ張りこれでも人間の仲間に這入つてる様な氣がいたします。ヘエ。』

『心に奢りを知らず、自らを卑しとして世を渡る。アヽ尊い尊い。私しも久し振で佳え事を聽かして貰ふて氣が晴れました。』

駕屋を相手に話をして居る内に、北陽の新地へ這入つて參ります、綿富の表へ駕を降ろして駕丁が内らへ申しますと、流石商賣柄目が高い、若い衆がバラ〳〵と表へ飛んで出まして

『オヽ是れは旦那さん、今日はよふこそお越し下されまして有難う存じます。』